

『我身にたどる姫君』の女帝と「天」・「唐」

金光桂子*

要旨

『我身にたどる姫君』には、物語史上稀有な存在である「女帝」が登場する。女帝には天女の性格が見られることから、『今とりかへばや』の女主人公との関係が指摘されている。一方、『浜松中納言物語』に登場する唐の女性たちも、日本の「ふつうの女性」との異質性という点では、『今とりかへばや』の女主人公に共通するものがある。また、『浜松中納言物語』と同じく唐土を舞台とする『松浦宮物語』の鄧皇后は、学識や政治手腕の面で女帝の先蹤というべき存在である。こうした女性像を物語史的にたどることによって、女帝の人物造型に「天」と「唐」という二つの異郷が深く関わっていることを明らかにする。

特に、『浜松中納言物語』で強調されていた、隠し事をせず率直であるという唐人の特性が、『松浦宮物語』を経て、大きく変容しながらも『我身にたどる姫君』にも受け継がれていることに注目する。

キーワード：女帝、天女、唐の女性、聖代、物語史

* 京都大学大学院文学研究科准教授

『我身にたどる姫君』中的「女帝」與「天」・「唐」

金光桂子*

摘要

在『我身にたどる姫君』作品中，「女帝」的登場部分在物語史上算是特有的存在。物語中女帝所表現出來的「天女性格」與『今とりかへばや』的女主角之間的關聯性至今已有相關研究。此外『浜松中納言物語』中登場的唐國（中國）女性也與日本所謂「一般女性」有所差異，此點也與『今とりかへばや』的女主角有所共通之處。再者，與『浜松中納言物語』同樣以唐土（中國）為背景的『松浦宮物語』之中的鄧皇后，在學識、政治手腕上可謂此「女帝」的先驅者。經由追溯物語史上各個物語中的女性像，可以看出「女帝」的人物造型與「天界」「唐國」之間有深厚的關聯。

其中『浜松中納言物語』中特別被強調的唐人率直不拘的特性，在經由『松浦宮物語』等物語之後雖然有了大幅的改變，但在『我身にたどる姫君』中仍然持續被繼承下去這點是本論的焦點部分。

關鍵詞：女帝、天女、唐國女性、聖代、物語史

* 京都大學大學院文學研究科副教授

The Empress(*Jotei*) of "*Wagami ni Tadoru Himegimi*" and "Heaven", "Tang"

Kanamitsu, Keiko*

Abstract

The Empress(*Jotei*) of "*Wagami ni Tadoru Himegimi*" is the extremely rare character in the history of Japanese tales. She has a nature of heavenly maiden in common with the heroine of "*Ima Torikaebaya*". Women of Tang in "*Hamamatsu Chunagon Monogatari*" bears some resemblance to the heroine of "*Ima Torikaebaya*" because they are rather different from Japanese ordinary women. *Deng Empress* of "*Matsura no Miya Monogatari*" is a precedent of *Jotei* in terms of political skills and knowledge. Analyzing the pictures of these female characters, it is revealed that the character formation of *Jotei* has relation with "Heaven" and "Tang". In particular, it is important that there are remarks in those tales that people of Tang are more candid than Japanese.

Keywords: Empress, Heavenly maiden, Women of Tang, Glorious reign, History of tales

* Associate Professor of Graduate School of Letters, Kyoto University